

路傍における石造物「道祖神」の立地場所の空間的特徴に関する研究 ～山梨市旧山梨市地区を対象地として～

山梨大学工学部土木環境工学科 ○学生会員 雨宮 洋太
山梨大学大学院医学工学総合研究部 正会員 大山 勲

1. 背景・目的

かつて人々は大事な場所に、様々な石造物を置くことでその場所を明示し、意味を与えてきた。

しかし、現在そのような場所への意味付けは無視され、道路拡張・拡幅や区画整理などの社会資本整備などの際に移動され、場所の意味が消失されている傾向にあるといえる。

なぜ人々はこの場所に石造物を置いたのだろうか。その場所には何か意味があるはずである。その意味と価値を考えていく上での基礎的研究が必要だと考え、景観特徴を把握することを目的とする。

2. 対象

石造物の中でも、山梨市旧山梨市地区に存在する「塞の神」と呼ばれる道祖神に注目し、対象とする。(対象数は117¹⁾)

3. 研究方法

石造物の移動の有無を把握した。設置場所の空間特徴(内部景観)、設置場所からの眺めの景観、立地場所の構成要素、眺めの景観(外部景観)、立地場所の歴史的特徴に注目し、現地調査を行った。

(1) 歴史的特徴

入手可能な最も古い測量図である明治43～44年の国土地理院地形図における集落の範囲や道路記号を照合し、設置場所と過去の集落や道との関係を把握した。

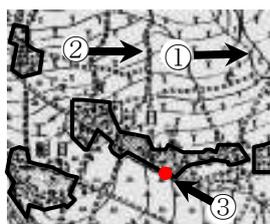


図1：古地図の例図 (山梨市大工周辺)

集落の範囲は植生界記号によって宅地が連続していると判断できる区域(図1の線で囲まれた範囲)を集落の範囲と判断した。古道は、地図記号で、小径を生活道路(①)、それより幅員の大きい里道や国道などを主要道路(②)とする。図における③は道祖神の立地例で、集落境界の主要道路沿いである。

(2) 設置場所の空間特徴

設置場所の道路形態、設置場所に接する水辺、植

栽に注目した。

(3) 設置場所からの眺めの景観

設置場所からの眺め景観として、道祖神の軸に注目し、その先の眺めを調査する。軸は、写真1における、踏み台(④)が置かれている向き、本体に「道祖神」と彫刻(⑤)されている向き、注連軸などの他の石造物(⑥)から正面を判断し、その反対側を背後とする。プレ調査から軸方向の景色が開いていて、軸の延長線上に特定の山があてられるという特徴がみられたので山アテについて特に着目する。

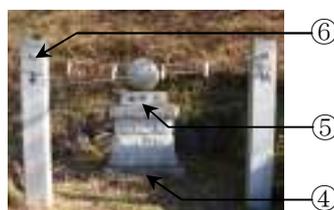


写真1：正面の判断

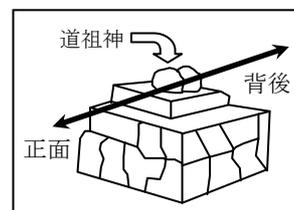


図2：軸の判断

4. 結果

4-1. 古地図との照合

道祖神の設置場所と、過去の集落や道との関係を、移動された道祖神と移動されていない道祖神別に示す。(数字は該当する道祖神の数、(%)は構成比。)

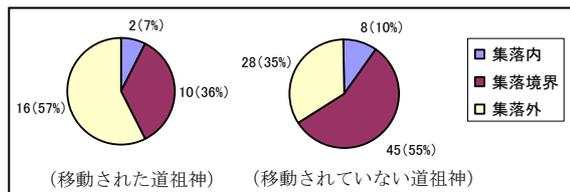


図3：設置場所と過去の集落範囲との関係

注) 分類項目において、集落境界とは、道祖神が、明治43～44年の集落範囲の境目に位置している場合である。

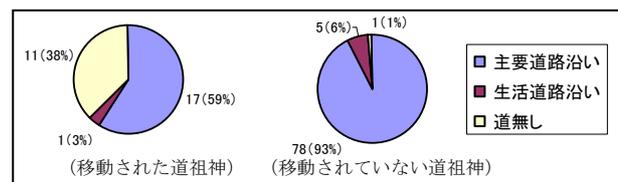


図4：設置場所と古道との関係

注) 分類項目において、道無しとは、道祖神が位置している場所は、過去において道がなかったという場合である。

キーワード：道祖神、石造物、立地特徴、景観特徴

連絡先：400-8511 山梨県甲府市武田4-3-1 山梨大学 E-mail：t03c003@ccn.yamanashi.ac.jp

4-2. 設置場所の空間特徴

設置場所の空間特徴について同様に示す。

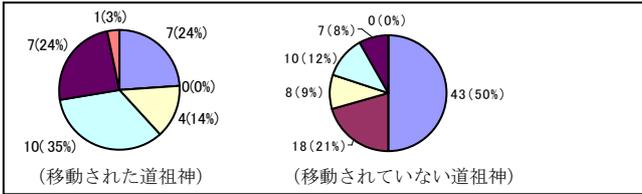


図5：設置場所と道路形態の関係
 注) 折れ曲りとは、クランク、カーブなどの形態の道路に設置されている場合である。
 注) 直線とは、交差点ではなく、直線区間に設置されている場合である。
 注) 敷地内とは、道路に接続する寺社や広場などの敷地内に道祖神が存在する場合である。

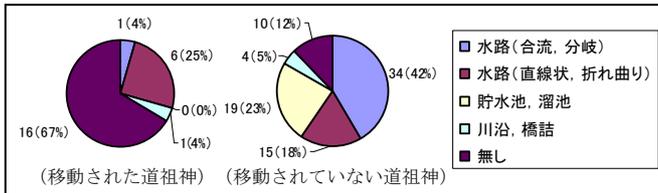


図6：設置場所に接する水辺の有無・水辺の形態
 注) 常時水が流れていない。明らかに排水溝と分かる水路は分類から除く。
 注) 分類において直線状とは、直線状の水路に沿って道祖神が設置している場合である。

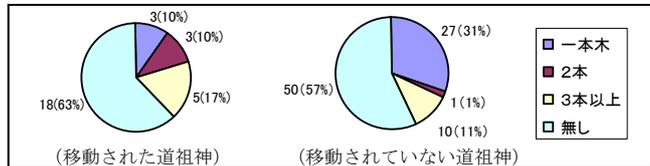


図7：設置場所への植栽有無・植栽の数

4-3. 眺めの景観

正面、あるいは背後の軸線と山アテの関係について同様に示す。

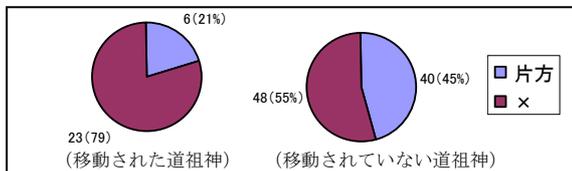


図8：眺めの景観 (山アテの有無)
 注) 分類において、片方とは、正面又は背後の片方だけ山アテがされている場合、×は正面・背後の両方も構造物で風景が閉じている場合である。

5. 分析

移動された道祖神と、移動されていない道祖神で特徴に違いがみられた。

古地図との照合により、移動されていない場所は集落境界が多く、主要古道沿いであった。従来言われている「塞の神」の立地特性である。本研究では更に次のような空間特徴を把握した。

移動されていない道祖神は、道路形態においては、アイストップとなって目立つ場所である三叉路や四辻などといった交差点に多いが、移動された道祖神は、直線道路区間沿いや寺社の敷地内などの、目立たないような場所に多い。

水辺との関係では、移動されていない道祖神は、水路の合流や分岐、貯水池や溜池などの水域に関係の深いような場所が多いということが分かった。一

方、移動された立地場所は、ほとんど水と関係のない場所であるということがいえる。立地場所は交差点が多いので、水路が分岐・合流するのは当たり前なのかもしれないが、流量の豊富さから、既存の水路が側溝として再整備されたと思われる場所が多かった。技術の乏しく、幾多の氾濫続きであった過去において、対象の設置場所の選定において、氾濫防止の神頼みとしての機能を付加したと思われる。

植栽においては、「小祠や塚石…(中略)…そのような場所には必ず高木が植えられた。」²⁾といわれているように、移動されていない場所には依代としての一本木の高木が道祖神に添えられている接合が比較的多い。しかし、移動の有無に関わらず植栽無しが過半数を占めている。そのような場所では、コンクリート舗装が目立っており、ヒアリング調査から、手入れのかからない配慮、または、その場所で行われるどどん焼き行事の配慮が、植栽無しの理由であることが分かった。

眺めの景観においては、移動されていない場所は景色が開いており、約半数に山アテがみられた。設置において、山岳信仰が融合され、意識されていたということがうかがえる。

6. 考察

以上の分析を総合的に考えると、移動されていない道祖神の設置場所は、水域などの自然的意味、過去の集落範囲や古道沿いという土地の文脈を読み解く歴史の意味、山岳信仰などの文化的意味があると考えられる。移動の有無による比較考察によって違いが見られたということは、石造物の移動や区画整理などにおける地形や土地の改変などにより、そういった場所の歴史や意味の消失に繋がっていると思われる。

道祖神の立地場所の景観特徴と、場所の意味の存在を把握したが、信仰の内容など文化的意味について更にヒアリング調査によって明らかにしていく必要がある。

単に石造物本体を残すことだけではなく、設置場所を価値ある場所として位置づけ、場所に込めた先人たちの生きしるしを残し、人々の根本的な意識を見直すことがこれからのまちづくりに必要である。

参考文献 1) 山梨市『山梨市の石造物』
 2) 篠原修・景観デザイン研究会『景観用語辞典』(彰国社・1998年)P.126